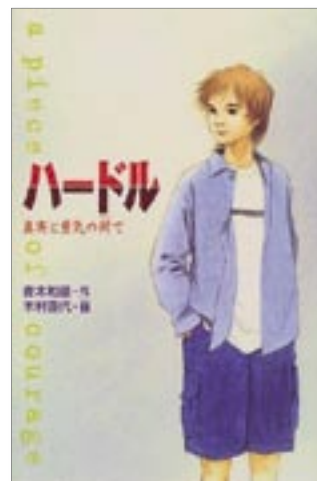




『ハッピーバースデー』

青木和雄／作 加藤美紀／画
金の星社

「おまえ、生まれてこなきゃよかったよな」。11歳の誕生日、祝福してほしい日に言われた兄の一言。あすかは声をなくしてしまう。本当の豊かさとは、生きる喜びとは。あすかの家族の戦いから「生まれてきてよかった」と思えるまでの日々が綴られます。



『ハードル』

青木和雄／作 吉富多美／作 木村直代／画
金の星社

バスケット部のエース、麗音（レオ）は階段から突き落とされ生死の境をさまようことに。学校はいじめの事実を隠そうとしますが、子どもたちは正義と勇気を持って学校に立ち向かいます。自分たちの力でハードルを乗り越えようとする子どもたちの姿を描きます。



『ハルばあちゃんの手』

山中 恒／文 木下 晋／絵
福音館書店

「いい手じゃ」。海辺の小さな村にうまれたハルの手を見てみんなが言った。「手」を通して描かれたひとりの女性の人生、その様々な場面。美しい鉛筆画が作品の世界を引き立てています。



『風神秘抄』

荻原規子／作
徳間書店

源氏と平家が覇権を争った平安末期を舞台にした歴史ファンタジー。平治の乱で敗れ落武者となった草十郎は絶望と孤独の中で彼の笛と舞姫の糸世の舞が生み出す強大な力に気づく。だが、時の権力者が彼らの力を求め、運命が変わり始める…。